

此頃思ふこと

自由學園家庭部長 松岡久子

私どもには六つ、五つ、三つの三人の女の子がございいますが、子供の教育に就いては、常々色々考へさせられる事が多うございます。

これは是非皆様におすゝめ致したいと思つて居るのでございますが、子供には小さい時から自分で物をさせる習慣をつけたいのでございます。

赤んぼがあるお宅では、夜寝かす時にお母様が抱いてねせすものでございますから、若し年子が生れたりしますと、御主人の方まで赤んぼを抱かされて、大騒ぎをしなければなりません。私どもでは、生れると直ぐから、別々の牀にねせる習慣をつけて置きますから、毎夜私が接寝をしなければ子供がねつかない等といふことなく、各々の牀にちやんと獨りでねます。これはお母さん方にとつてどんなにか、手のぬけた、有難い事でありませう。習慣のつけかた一つに依るのでございます。

又お玩具の仕末等に就きましても、一々自分で箱

に入れさせるやうにし、自分で責任を、すべての事にもたせて置きます。これはお母さんにとつて非常な手のぬける事であるばかりでなく、子供自身にもよい習慣を養ふ事になります。私が狭い家に住み、こんな小さい子があるにも拘はらず、晝間は自由學園の方へ教へに出て居られるのは、こんな事が少しでも餘裕を與へてくれるからだぞ存じて居ります。

次には、子供の時分から宗教的氣分に浸してゆきたいと思ふて居ります。此頃の世の中が複雑きわまりなく、従つて青年期にある少女達が自殺したりする事を度々見聞して居りますので、私どもの小さい子達が年頃になる迄には、どんな風に社會が變つてゆくか知れない、と思ひますと宗教教育が一層必要のやうに感ぜられます。

それで日曜毎に、四五歳位の子供を近所から集めまして、小さい日曜學校を開いて居ります。むづかしい宗教の言葉等は一切ぬきに致しまして、やさし

いお話と讚美歌位にします。先生には、私自身も
う一人年とつた男子の方に御願ひしてありますが、
洗禮などいふ事は少しもすゝめず、たゞ宗教に親
ませるやうに致して居ります、これでも大人になつ
てからはいくらか心に殘る事と思つて居ります。

子供には、性に關しての差別なく教育したいと思
つて居ります。「私は女の子ですもの、そんな事は爲
ません」とか、「私は男の子だから、こうしてもよい」
とか、そんな事は一切ぬきしてあります。私ども
の子供達にも、女の子だといふ事を教へてやつた事
もありませんで、未だ子供たちは自分是他の人々が
女の子だといふから、女の子だらう位に考へて居る
かも知れません。先日も長女が幼稚園にまゐりまし
て、あなたは女の子だか男の子だかわからない、と
云はれたと申します。善い事はなんでも、男の子女
の子の差別なくさせてゐるせいかも知れませんが、
男の子とよく遊んでゐます。

社會では、男女共學といふ事が盛に唱へられて居
りますが、私は大賛成でございませぬ。私どもの子供が
大きくなつた頃、大學でも男女共學が許可になりま
したら、直ぐ入學させる積りです。その準備として、

子供たちには性の差別を教へず、男の子でも女の子
でも、同じに見る事を教へてゐます。

それから外面の事では子供達は、洋服を用ひさせたいと思ひま
す。服装改良の聲が大分やかましいやうでございませぬが、實際日本服
は今のまゝでは都合の悪い事が多いので、私ども、思ひきつて洋服
を著ようかと思ひますが、色々世間には、かかつて勇氣のないわけか
實行が出来なくて居ります。もう私どもの子供の時代には、全部婦
人も洋服にならうと思ひます。又さうなるには、子供の時から洋服
にならして置く事が必要であります。

襦袢のとれませぬ頃は、洋服は一寸不便な事もありますから、襦
袢のとれる頃から洋服にした方がよろしうございませぬし、日本の家
屋の構造では冬季に洋服は少し寒すぎると思ひますから、三四歳の
小さい中は冬季袴等は洋服はやめさせます。六七歳からは年中洋服
に致します。洋服は經濟の點から云つてもお安い事は、お用ひにな
つた方は御存じでいらつしやいませう。

私どもの子供は年中洋服なので、外出した後に、よそのお子様の
美しい友禪の著物や、赤くぬつた木履を見ますと、それは／＼欲し
がるのでございませぬ。洋服を著てゐるのに、下駄や著物はあまり買
つても不經濟になるだけと思ひましたが、子供が欲しがらぬのを無理
にとめるのも可愛いさうですし、又子供時代は一生に一度と思ひ、
ますと、なるべくは楽しくさせてやりたいと思ひ、此頃友禪の著物
と木履を買つてやりましたら、もう一通り家にあると思ふと、それ
で安心してゐるやうでございませぬ。唯今私が氣づいて居る事はこゝ
な位でございませぬ。